

日本特別ニーズ教育学会第26回研究大会（WEB大会）

自由研究発表プログラム

10月17日（土）9:00～16:00

*上記の日時に大会参加登録者は発表動画の視聴を行うことができます。

自由研究発表Ⅰ

コーディネーター：河合隆平（東京都立大学）

1. 「優生保護法の地域浸透に関する研究(2)―茨城県における優生保護法の具体化過程の解明、1955年資料を手掛かりに―

○船橋秀彦（福祉型専攻科シャンティつくば）

2. びわこ学園における「発達保障」思想の実践化過程―重症心身障害児者の「本人理解」に焦点を当てて―

○垂髪あかり（神戸松蔭女子学院大学教育学部教育学科）

3. 戦後の盲学校における知的障害をもつ子どもの教育創造の歴史

○中村尚子（NPO 法人発達保障研究センター）

自由研究発表Ⅱ

コーディネーター：堤英俊（都留文科大学）・石川衣紀（長崎大学）

1. 保育士の専門性と特別な支援との関係に関する理論的検討

○松浦淳（青森中央短期大学・東北大学大学院教育情報学教育部後期課程）・
熊井正之（東北大学大学院教育学研究科）

2. 特別なニーズ教育とケイパビリティアプローチの接合への試論―ナラティブ論を手掛かりに―

○呉文慧（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

3. 特別支援教育における合理的配慮の動向と課題―障害者権利条約の人権モデルの視点を踏まえて―

○権明愛（十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科）

4. 幼児児童生徒への理解啓発を図るための合理的配慮の検討—肢体不自由のある幼児児童生徒を中心に—

○徳永亜希雄（横浜国立大学教育学部）・
田中 浩二（東京成徳短期大学幼児教育学科）

自由研究発表Ⅲ

コーディネーター：田中謙（日本大学）・内藤千尋（松本大学）

1. わが国における知的障害者の大学教育研究の現状と課題

○田中良三（愛知みずほ短期大学・愛知県立大学名誉教授）

2. フリースクールと原籍校の持続可能な連携を可能とする要因—不登校の子どもの学習評価をめぐる—

○武井哲郎（立命館大学経済学部）

3. 障害児の地域生活と子育て支援に関わる分析枠組みの検討—児童期発達障害児の余暇・放課後に関する研究に向けて—

○伊井勇（立命館大学大学院社会学研究科博士前期課程）

4. 知的障害青年の学びの場・生涯学習に関する研究—知的障害青年の学びの要求と発達課題に着目して—

○田中隆人（立命館大学大学院社会学研究科前期博士課程）

自由研究発表Ⅳ

コーディネーター：澤隆史（東京学芸大学）

1. 特別支援学校の適正配置に関する一考察Ⅸ—人口推計から見る新設校設置地点と通学区域—

○寺門宏倫（茨城県立つくば特別支援学校）

2. 特別支援学級在籍数の増加についての一考察～北海道 A 管内の事例から～

○服部健治（根室市立成央小学校）

3. 当事者調査からさぐる高等特別支援学校寄宿舎の役割—寄宿舎に入舎する高校生への面接法調査から—

○小野川文子（北海道教育大学釧路校地域学校教育実践専攻）

自由研究発表V

コーディネーター：加瀬進（東京学芸大学）・黒田学（立命館大学）

1. 教育現場における「障害者」の「包摂」—インド・ケーララ州のスペシャル・スクールを事例に—
○中江優花（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
グローバル地域研究専攻博士後期課程1年）
2. 中国におけるインクルーシブ教育システム構築に向けて—教師の専門性に関する一考察—
○付成（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科）
3. アメリカ合衆国におけるギフテッドの教育保障—才能教育関連法規の分析を基に—
○関内偉一郎（東邦大学理学部非常勤講師）
4. アメリカ合衆国における障害児童生徒を包含した教育目標・評価システムに関する理論構築—National Center on Educational Outcomes (NCEO) の初期研究成果を手がかりに—
○羽山裕子（滋賀大学教育学部）

自由研究発表VI

コーディネーター：池田吉史（上越教育大学）・副島賢和（昭和大学）

1. 小学校の通常の学級における入院児童に対する教育的支援の実態—院内学級との連携を視野に入れて—
○田中亮（塩尻市立塩尻東小学校・東京学芸大学連合大学院学校教育学研究科）・
奥住秀之（東京学芸大学）
2. 熊本地震における特別支援学校の被災状況—管理職への質問紙調査から—
○五島脩（東京家政大学子ども学部）・高野陽介（横浜国立大学教育学部）
3. 発達障害を有する子ども・若者のSNS使用の実態—発達障害当事者調査から—
○柴田真緒（埼玉県立所沢特別支援学校）・平井優美（武蔵野市役所）
・高橋智（日本大学文理学部）
4. 小学生は授業スタンダードをどのように捉えるのか—個人の権利意識の発達の観点から—
○前岡良汰（株式会社つむぎ）・赤木和重（神戸大学大学院人間発達環境研究科）

自由研究発表Ⅶ

コーディネーター：渡邊流理也（新潟大学）・石井智也（日本福祉大学）

1. 発達障害の可能性があり2年間不登校の児童が教室復帰に至るまでの通級指導教室での支援の効果
○川村修弘（宮城教育大学附属特別支援学校）・
三浦光哉（山形大学大学院実践研究科）
2. 小学校中学年の通常の学級における発達障害児と他者との相互作用の変容に関する研究—14か月にわたる縦断研究を通して—
○加茂勇（新潟市立木戸小学校）
3. 知的障害のある若者の人生に対する認識—ライフライン図を手がかりとして—
○立田瑞穂（龍谷大学社会学部）
4. 支援を必要とする当事者に必要な継続的なアプローチを目指す—支援体制の構築と余暇・文化的活動への取り組みについて—
○刀禰豊（チーム響き・岡山県立東支援学校）